

1	(1)	40	(2)	111	(3)	89	(4)	33
	(5)	124	(6)	7	(7)	10 (L)	(8)	54 (秒)
	(9)	92 (cm)	(10)	80	(11)	8 (時間) 50 (分)	(12)	3

2	(1)	19	れつ目	(2)	15	れつ目

3	(1)	9	日目	(2)	12	日

4	(1)	94	cm	(2)	36	cm

5	(1)	23	時	50	分	(2)	19	回

6	(1)	兄	が	23	点	取って	勝つ	(2)	27	点

1 (7)  $300\text{dL} - 20\text{L} = 30\text{L} - 20\text{L} = \underline{10\text{L}}$

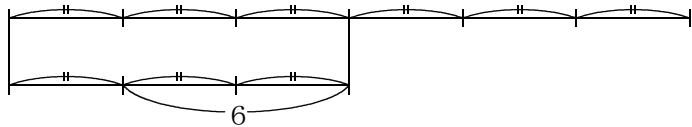
(8)  $\square \text{秒} + 50\text{秒} = 1\text{分}44\text{秒}$   
 $\rightarrow 60 + 44 - 50 = \underline{54} \text{(秒)}$

(9)  $80\text{mm} + \square \text{cm} = 1\text{m}$   
 $\rightarrow 100\text{cm} - 8\text{cm} = \underline{92}\text{cm}$

(10) 12月1日が金曜日  $\rightarrow$  12月2日, 9日,  
 16日, 23日, 30日が土曜日。  
 $2 + 9 + 16 + 23 + 30 = \underline{80}$

(11)  $12\text{時} - 10\text{時}20\text{分} = 1\text{時間}40\text{分}$   
 $1\text{時間}40\text{分} + 7\text{時間}10\text{分} = \underline{8\text{時間}50\text{分}}$

(12) 線分図で表す。ある数を1目もりとして、ある数に6をかけると6目もり分になり、その大きさの半分は  $6 = 3 \times 2$  より3目もり分になる。



図から、 $3 - 1 = 2$  (目もり) が6にあたる。  
 ある数、つまり1目もり分は  $6 = 3 \times 2$  より 3 になる。

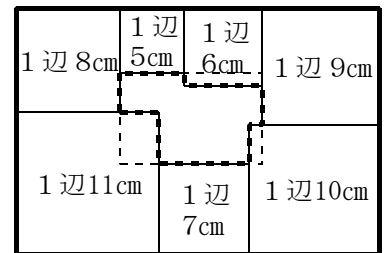
2 (1) 1, 4, 7, 10, 13, 16, 19。  
 1だん目の数は1, 2, 3, ...なので、そのまま 19 れつ貝となる。

(2) 1, 5, 9, 13, 17, 21, 25, 29。  
 2れつ目の数は1, 3, 5, ...で、2ずつふえる。  
 $29 - 1 = 28$ ,  $28 = 14 \times 2$  より、はじめから14れつうしろ。  
 よって、 $1 + 14 = \underline{15}$  (れつ貝) となる。

3 (1) なるべくちよ金の少ないときを考える。  
 10円玉は、最大で4まいまで。  
 50円玉は、最大で1まいまで。  
 $4 + 1 = 5$  なので、はじめて合わせて5まいになるのは、50円玉1まい、10円玉4まいのとき。  
 $50 + 10 \times 4 = 90$  (円)  
 $90 = 10 \times 9 \rightarrow \underline{9}$  貝

(2) ちよ金の十の位が6, 7, 8, 9のとき、50円玉も10円玉もある。また、ちよ金が100円になってからは、100円玉はある。そのような金がかくは  $10 \times 40 = 400$  (円) までに、  
 160円~190円, 260円~290円,  
 360円~390円の、 $4 \times 3 = \underline{12}$  (貝) ある。

4 (1)  $5 + 6 + 7 + 8 + 9 + 10 + 11 = 56$  (cm)  
 $56 = 28 \times 2$  より、よこは28cm。下の3つの正方形について考えると、 $28 = 11 + 7 + 10$  か  $11 + 8 + 9$  だが、



右下の正方形が1辺9cmだと大小関係から、左上の正方形が1辺10cmになり、たてがおかしくなる。  
 よって、各正方形の大きさは上の図のとおり。  
 たて...  $8 + 11 = 19$  (cm)  
 $19 + 28 = 47$  (cm)  $47 + 47 = \underline{94}$  (cm)

(2) すきま部分をひろげて、長方形として考える。  
 よこは  $5 + 6 = 11$  (cm) で、たては、(1)の長方形より  $5 + 7 = 12$  (cm) 小さい。  
 $19 - 12 = 7$  (cm)  $7 + 11 = 18$  (cm)  
 $18 + 18 = \underline{36}$  (cm)

5 (1) まず、23時を考える。 $10 - 2 - 3 = 5$  で、あと5。なるべくおそいときなので、50分。  
 よって、23時50分。

(2) 時間と分で、 $0 + 3$ ,  $1 + 2$ ,  $2 + 1$ ,  $3 + 0$  をそれぞれ考える。  
 $0 + 3$ ...時間は0, 分は3, 12, 21, 30  
 $1 + 2$ ...時間は1, 10, 分は2, 11, 20  
 $2 + 1$ ...時間は2, 11, 20, 分は1, 10  
 $3 + 0$ ...時間は3, 12, 21, 分は0  
 $1 \times 4 = 4$  (回),  $2 \times 3 = 6$  (回),  
 $3 \times 2 = 6$  (回),  $3 \times 1 = 3$  (回)  
 よって、 $4 + 6 + 6 + 3 = \underline{19}$  (回)

6 (1) 表をかいてしらべる。  

	7	5	6	4	9	2	8	3	1
兄	7	7	7	11	20	20	20	23	23
弟	0	5	11	11	11	13	21	21	22

 よって、兄が23点とって勝つ。

(2) 基本的に負けている方がカードを取るというルールなので、大きな点差はつかない。最も点差がつくのは、最後に同点から9のカードを取るとき。  
 $1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 = 36$  (点)  
 $36 = 18 \times 2$  より、8回目までで18点どうしから、9回目に兄が9を取ればよい。  
 よって、 $18 + 9 = \underline{27}$  (点) が最大になる。そのような取り方の1つとして、8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, 9 がある。

(配点) 1; 各5点  $\times 12$  他; 各4点  $\times 10$